

2019年8月1日

幼保連携型認定こども園 YMCA 保育園 8月えんだより

8月聖句 「あなたがたの救われたのは恵みによるのです」

<エフェソの信徒への手紙第2章5節>

夏本番の季節がやってきました。子ども達は、夏ならではの泥遊びやプール遊びで、思い切り体を動かします。夏は冷たい、甘い食べ物も一杯ある時ですから、子ども達にとっては更に楽しみがたくさんある時期ですね。

74年前、戦争が終わると、親と生き別れになった子ども達は、戦争孤児と呼ばれ、当時は福祉の制度も無く、親戚宅に身を寄せる子ども達や保護施設で養育される子ども達が12万人を超えていました。当会では1950年代始めに、民家を借りて、幼保教室が始められ、お家から少しずつお米を持参していただきながら給食も始められました。その後、戦後復興と共に田舎から疎開してくる青年達に共同生活の寮を提供しながら、今度は保育園が必要となり1970年に認可保育園が開始されました。

戦後の保育目標には、礼儀指導、衛生指導など、当時の時代を映す目標が掲げられていました。その詳細のひとつに「分け合うこと」が書かれています。当然の事なのでしょうが、食べ物が豊かに無い時代に、子ども達に「分け合うこと」を指導することは、何と心を痛めることかと想像します。子どもだけには、お腹一杯食べさせてあげたいと希望をいただきながら、過ごしていたことでしょう。

苦しみの中に、希望を抱いて歩むところに練達が生まれるのだと思います。そして、お互いがお互いを思う心を育むところに、大きな意義があり、未来の平和への一歩があるのだと想像します。

先日、ある高校の先生達との議論の場で「若者の心が脆弱になった。強くするためにはどうしたらいいのだろうか？」と切り出されました。様々な観点から意見が交わされたなかに、「幼き時からの子どもの主体的な生き方の必要性」が話されました。自らの意志を持って動き出すこと、自らの希望を持ってやり抜くこと、失敗を繰り返しながら、正義を見出すこと等、子ども達の未来を考える大切な意見が交わされました。

2020年は、当会は神戸で認可の保育を開始して50年目の節目にあたります。そして未来を担う若者の育成は、幼児期から必要であると語られます。この時を迎えられることに心から感謝をして、将来を見据え、目の前の子ども達の今をしっかりと考える時にしたいとおもいます。

年主題 『ことばに満たされて～ひびきあう～』

8月	乳児 (0,1,2歳児)	幼児 (3,4,5歳児)
月主題	たのしい	たのしむ
月の願い	<ul style="list-style-type: none"> *夏の生活をゆったり、健康に過ごす *周囲の人やモノとふれあい興味をひろげる 	<ul style="list-style-type: none"> *平和を考え、願い、共に祈る *家族や保育者とゆったりとした時間を過ごす *夏の遊びを大胆に楽しむ
讃美歌	ちから	うみでおよぐ幼児讃美歌 28